

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675800090
法人名	社会福祉法人 昭芳会
事業所名	グループホーム芳明庵
所在地	鹿児島県始良郡湧水町般若寺358番地 (電話) 0995-75-4622
自己評価作成日	令和4年2月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然豊かで静かな環境の中にあり、各居室も十分な広さとトイレ・洗面所が設置されておりプライバシーにも十分配慮がされている。
 ・理念である「生活主義」「五感主義」「よりよく生きる」を基に職員一同が共有し利用者中心のケアに取り組んでいる。
 ・芳明庵は併設の特別養護老人ホームつつはの園・デイサービスセンターの利用者や職員と行き来しての交流がある。又緊急時の対応や災害対策、避難訓練にも一緒になって取り組んでいる。
 ・協力医療機関と在宅支援を強化しており、普段の体調管理から緊急時の対応まで適切な医療が受けられるように支援している。
 ・職員の資格取得に向けた取り組みや、研修会・勉強会など法人全体でバックアップの体制ができており、職員個人の質の向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは宮崎県境にほど近い県道沿いに、同法人のデイサービスや居宅介護支援事業所、母体の特別養護老人ホームと隣接しており、温泉地という地域柄、ホームも源泉かけ流しの温泉を利活用している。基本的に入浴は週2回としているが、汚染した時や希望があればいつでも入浴できる体制を取っている。また、入浴後の皮膚ケアや水分補給にも気を配ると共に、同性介助についても希望に応じて対応するよう努めている。

「生活主義 五感主義 よりよく生きる」を理念に掲げ、自宅での生活の延長を目指した支援ができるよう、毎月の援助会議で確認すると共に、利用者の状況が理念に即しているか等、理念の振り返りを行っている。

身体拘束廃止委員会を置き、2か月毎に拘束の弊害についてや拘束廃止に向けた方針についての話し合いを行っている。行動を遮るような声掛けはすべて言葉による拘束であることを身体拘束廃止委員会や申し送り時等、日頃より繰り返し確認し合うと共に、気付いた時は職員間で声を掛け合う等、注意喚起に努めている。

いつでも手に取れる場所に接遇マニュアルを備え、人格やプライバシーに関するテーマについてを援助会議や申し送り時等、随時話し合いを行い、プライバシーを損ねない言葉遣いや接し方について気配りしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の共有を行い五感を感じて頂くよう玄関やリビングに季節のしつらえをしている。	毎月の職員会議で理念を共有し実践につなげているかを振り返る機会を設けている。これまでの自宅での生活の延長を目指した理念「生活主義」を掲げ、日々の支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により中学生のボランティアの受け入れは困難になっているが、小学校や中学校で集めているペットボトルのふた集めなど協力はしている。	受診先の医療機関で知人と会う機会があるほか、馴染みの美容室に出かけたり、近隣者によるお裾分けを頂く際に挨拶や会話を交わしている。また、民生委員による交流は現在も続いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域での買い物時など認知症の説明を行い理解を求める機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係で運営推進会議が開催できていないが、役場に話をしに行く機会を設けている。	毎月の援助会議の中で運営推進会議を組み込み、事業所状況やヒヤリハット、外部評価の結果報告等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居の報告や事故報告行い協力関係を築くようにしている。	介護保険関係の書類や医療に関する申請代行等、月に数回程度行政に向向いており、その際にホームの実情を伝えたり、相談助言をもらう等、連携を深めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し朝のミーティング時にも話し合い行っている。建物全体施錠しない開放的な環境になっている	2か月毎に身体拘束廃止委員会を実施し、虐待の種類や拘束の弊害、拘束廃止に向けた方針について話し合っている。また、同敷地内にデイサービスや特別養護老人ホーム等があるため、見守りや声掛けをしてもらえる関係ができています。言葉による拘束についても職員間で注意喚起に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けた職員が勉強会で報告行っている、又日常的に言葉使いが虐待になっていないか話し合うようにしている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で年1回行っているがコロナ禍により資料配布となっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に書面にて時間をかけて説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月「ニュースレター」「芳明庵だより」にて近況報告書、介護計画経過報告書を送付し電話等を使用し意見や要望を聞く機会を設けている。	家族の意見や思いは電話やLINEで尋ねるほか、ホーム便りの送付により意見や感想をもらっている。コロナ禍で面会を中止にしているため、代わりにLINE電話上で利用者と家族が顔を合わせる機会を作っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週行われる法人全体の昼礼に理事長も参加され話す機会がある。月一回の援助会議でも意見や提案を話し合う機会がある。	毎日の申し送り時や毎月の職員会議、休憩時間等、随時職員の意見を聞くほか、状況に応じて個別面談も実施している。また、勤務表作成時には休日の希望を尋ねたり、資格取得時のバックアップも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自分の目標を決め自己評価を行っている。研修への参加出来る機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修に参加できるように年間計画を立てている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に所属している。各支部の研修会などに出来る限り参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時のまるとシートを作成してご家族と本人の要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に困っている事や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療と介護の連携を行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者中心のケア「パーソンセンタードケア」に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人のニーズをまるごとシートを利用して家族と一緒に考えて家族の協力を得て支援している</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ユニット間の知人との交流が出来るように支援行っている。散髪には入居前からの馴染みの美容室に行っている。</p>	<p>コロナ禍のため、併設デイサービスとの交流は中断しているが、馴染みの美容室に出かけたり、受診の帰りに自宅に立ち寄り様子を見て安心してもらう等、可能な範囲での交流は続けている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士知り合いであるかの関係を把握し交流が出来るように環境作りを行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も運営推進会議に近隣住民代表として出席をお願いしているが、コロナ禍により会議の開催が出来ない現状にあるしかし電話での相談支援は行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や介護計画更新時に確認を行っている。困難な場合は情報・生活歴から本人の立場になって考えている。	入居前の情報を家族やケアマネジャー、医療関係者から収集し「まるごとシート」に落とし込み把握すると共に、入居後は毎日の気付きを自由に記入できる連絡帳にて記録し情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族からのまるごとシートを利用し生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に得ている情報から現状を把握して過ごし方を考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者と職員で話し合いを持ちながら情報を共有して介護計画を作成している。	本人や家族の意向を基に、毎月の援助会議によるカンファレンスや定期モニタリング、また、主治医の意見も参考にしながらケアプランを作成している。また、新聞や読書等、楽しみ事や趣味等をプランに組み込む等、利用者本位のケアプランを作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録に様子を書いて変わった事などは話し合う機会を作り情報を共有して介護計画作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の介護施設との協力体制が整っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議など地域資源を得る機会はあるがコロナ過でもあり運営に反映することは少なくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用して医療機関と密に連携が取れている。他科受診は家族の協力を得て支援している。	訪問診療や看護師との連携が図れることから現在は、利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。眼科や耳鼻科等の他科受診は基本的には家族に支援をお願いしているが、状況に応じて職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	併設の介護施設の看護師の協力や在宅診療の看護師の協力を得ながら支援している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	医療機関と密に連携を取り早期発見対応が来ている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に主治医と終末期について話し合い重度化になった時は病院と家族との面談をもってニーズに沿った支援を行っている。	入居時に重度化や看取り対応についてを説明すると共に、入居後も状態に変化が見られた時等、随時、説明し確認することで家族の思いを汲み取っている。年1回、看取りに関する外部研修会（リモート）に参加し、援助会議でフィードバックすることで情報共有を図りスキルアップにつなげている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	医療機関と消防署の協力を得て緊急時の対応を学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回併設の介護施設と協力して地震、火災の訓練を行っている。コロナ過で以前のように大きな訓練は出来ていないが、職員と利用者を交えた訓練を行ったり職員間でどのようにして利用者が安全に避難することが出来るか話し合いをしている。</p>	<p>年2回、夜間想定を含む災害訓練を法人全体で実施しており、通報手順や避難誘導、消火訓練等について確認している。備蓄に関しては「非常時物品食品リスト」を作り、飲料水や食料品の消費期限を管理している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室でトイレ、洗面所がありプライバシーの確保が出来ている。職員の言葉掛けも2ヶ月に1回の身体拘束廃止委員会にて職員一人ひとりが振り返り利用者の人格を尊重している。	手に取りやすい場所に接遇マニュアルを備えると共に、申し送り時等で毎日接遇について話し合っている。トイレ誘導の際は、さり気なく部屋のトイレに誘い促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の意思を言い易いように、言葉に工夫したり、言葉かけに気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活歴と日々の生活の様子を把握して、利用者一人ひとりのペースに合わせた、その人らしい生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人の生活歴、日々の生活の様子を把握して、身だしなみが継続出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活歴、嗜好の確認を行い、利用者の好みに応じた味付けや、季節の物を取り入れ、食事が楽しみになるようにしている。利用者の現存機能を活かし、準備や片付けを一緒に行っている。	夕食は特養の厨房から届くが朝昼食はホームで調理しており、利用者も調理の下ごしらえや料理の盛り付けを手伝っている。また、干し柿作りの際は器用に包丁を使って皮をむく方もおり楽しく調理に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量記録している。栄養のバランスを考えた食事を一人ひとりの状態に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の意思を尊重し口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄が出来るようにタイミングを見ながら支援している	各居室にトイレが備えられているため、利用者は終日、自分の居室のトイレを使用している。基本的には座位が取ればトイレ誘導につながるが、夜間は状況に応じてパット交換に代える等、都度判断し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や飲水を多めに摂って頂くようしているが、排便の確認出来ない時は下剤に頼っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりに合わせた入浴を支援している。温泉でありお湯に浸かれるよう器具を揃えている	週2回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも入浴は可能である。地域柄、天然温泉を利用できるため入浴剤は使用しないが、冬至には柚子湯を楽しんでいる。入浴後の皮膚ケアや水分補給にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室になっている為その人に合わせて灯りの調節など環境を整え安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルに個別に閉じていつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みなど残存機能を活かした役割を支援している。気分転換に敷地内の散歩をするなど支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過ではあるが緩和の状態にある時は馴染みの美容室への外出支援を行っている。	コロナで外出の機会は減ったが、受診や馴染みの美容室に出かけたり、つつじや桜等、季節の花見に人混みを避けて出かける機会を作っている。また、お花見弁当を作って園庭で食べたり、敷地内で毎年恒例の豊年祭を開催して、さんまを焼いて食べる等、季節行事を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の理解が出来る人は小遣い銭を持たれている。職員はいつでも使えるように支援している</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話はいつでも使用できるようにしている。利用者の中には携帯電話を持たれている方もいる手紙も届いた時は直ぐに本人に手渡している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の場は落ち着いた生活が出来るように工夫している。生活感や季節感を感じるようしつらえ等に工夫している。</p>	<p>開放的なフロアには季節の作品が飾られ、楽しく明るい印象を受ける。コロナ感染症対策として、こまめな換気や消毒に気を配ると共に、空気清浄機を増設して対応している。広い敷地内には色とりどりの花木が植えられているため、四季の変化を感じ取ることができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを置き利用者同士が雑談やテレビが観られるように環境を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談をし思い出の品や写真と使い慣れたタンス等を持って来てもらい居心地良く過ごせるようにしている。	エアコンに電動ベッド、洗面台やトイレが備え付けられているため、とても過ごしやすい。また、テレビや位牌、冷蔵庫を持ち込まれる方や固定電話を設置している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の安全面はスタッフ一同で話し合い安全に生活出来るよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない